

令和6年度 自己評価・学校関係者評価

1 教育目標 たくましく やさしい子

2 本年度の重点目標 『自ら意欲を持って主体的に活動する子』

0歳児…保育者との信頼関係を築き、安心して過ごす

1歳児…周囲の環境への興味・関心を広げる

2歳児…保育者や友だちと一緒に好きな遊びを楽しむ

満3歳児…喜んで登園し、好きな遊びを楽しむ

年少…喜んで登園し、保育者や友だちと楽しく遊ぶ

年中…友だちと関わりながら遊びを進めていくことを楽しむ

年長…自分で考えたり、友だちと力を合わせて意欲的に園生活を送る

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価点 A 十分に成果があった、B 成果があった、C 少し成果があった、D 成果がなかった

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員	
	評価点	こども園の取り組みと改善策	評価点	評価・意見
指導計画の作成	A	・前年度の反省を活かして、指導計画の見直しをしている。 ・子どもたちが、主体的に活動できるような行事の持ち方や保育の在り方を計画していきたい。 ・月案、週案、日案は子どものやりたい気持ちを尊重し、ゆとりをもった案をたてるようにした。	A	・子どもの主体性に重点を置いた指導計画の実践が始まっている。長く柔軟に取り組んでいただきたい。

保育内容	B	・子どもが自ら意欲をもって、主体的に活動できるような保育内容を研修していきたい。 ・人権擁護等に関するチェックリストなどを活用し、全職員で子どもの人権を尊重した関わりをしていけるようにしていく。 ・乳児部では、乳児部会議を月に1回、クラス会議は必要に応じて行い、子どもに関わる職員全員が共通の思いで、保育できるようにしている。	B	・ひとりひとりの主体的な活動への対応は難しい面もあるかもしれないが、研修を重ね、園としてのノウハウを積み上げていただきたい。 ・子どもの人権に関して先生方が気軽に声を掛け合える雰囲気づくりをお願いしたい。
保育環境	B	・研修会に参加したり園内研修を行い、クラス等の環境構成を考えている。 ・環境構成は、子どもの様子をみて何度でも変更する柔軟な気持ちをもって保育をしている。 ・保育者が子どもにとって一番身近な環境であるということを常に念頭におき、保育をしていきたい。	A	・とても工夫されていると感じる。保育環境についても保護者に伝わる機会があれば良いと思う。

保育記録の作成	B	・保育日誌を毎日記入することで、保育の振り返りをしている。 ・乳児部は「個別の指導計画」を毎月、幼児部は「個の記録」を学期ごとに書き、一人ひとりの成長や課題を確認している。 ・デジタル化を取り入れ、業務の軽減に努めたい。	A	・丁寧な記録の積み重ねは園にとっても貴重な財産といえるだろう。 ・先生方の負担軽減と、共有の利便性から、デジタル化を推奨する。
情緒の安定	A	・子ども一人ひとりに寄り添い自分のしたい遊びを主体的に出来るように環境設定を行い、心の安定が図れるよう引き続きしていく。	A	・日々の園生活の実践がわかる一年だった。
健康管理と安全管理	B	・登降園管理システムにて出席を確認し、登園していない園児には必ず連絡を取るようにしている。 ・毎朝一人ひとりの顔を見ながら出席確認をしている。発熱、怪我の時はもちろんいつもと様子が違う場合も、保護者に連絡をするようにしている。 ・感染症が流行っている時には、園医と相談し休園の措置をとった。また、保護者には感染状況を知らせ、注意喚起を促した。 ・ヒヤリハット事案は記録をとり、職員で共有し再発防止に努めている。	A	・園としては適切な対応がなされている。 ・安全管理については必要な部分で保護者と共有し、ともに子どもを守る意識を高めてもらいたい。

保護者への対応	B	・常に笑顔で対応し、機会を捉えてこども園での様子を伝えるように心掛けている。 ・保護者からの意見等は、主幹や園長に報告し、担任だけの問題ではなく園全体として対応を検討するようにしている。	A	・日々先生たちの笑顔の対応には感謝している。 ・ホームページ等、園が発信していることが広く知られるよう、保護者間でも声を掛け合いたい。
保育者として	B	・同僚と保育について話し合いをする場を設けたり、研修等に目的意識を持って参加し自己研鑽に努めていきたい。 ・言動等、常に子どものモデルとなるように心掛ける。	A	・日々子どもたちに愛情を持って接してくれていることについて、感謝している。 ・先生方の時間的、心理的な余裕が増えるよう願っている
特別な支援を必要とする子への対応	A	・「発達支援コーディネーター」を中心に、園内で話し合いを行い、他機関との繋がりを大切にしながらその子にとって最善な方策を模索している。 - 保護者への丁寧な対応にも、引き続き努めていきたい。 ・各種研修会に参加し、対応等について勉強している。	A	・藤枝市では小中学校ではもちろん、それ以上の年齢まで支援を繋げる方向で行政をはじめとする諸機関が動き始めている。保護者もあわせて、穏やかに生活成長できるよう、他機関との連携をとって、引き続き対応をお願いした。
ト 保護者アンケート	A	・メールで提出を呼び掛けた回収率 94% ・提出していただいたアンケートは、職員で回覧し自分たちの保育を反省していきたい。	A	・集計の負担を考えると、Webアンケートの利用をした方が良いが、園の負担が少ない方法が良いと思う。

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育について	今年度、「子どもたちが主体的に活動できる保育や環境構成について」職員全体で取り組んだ。引き続き子どもたちが、登園を楽しみにし、一人ひとりが生き生きと活動できるよう研修を重ねていきたい。 また、今、目指している保育について機会を捉えて保護者に周知していきたい。

令和 7 年 3 月 4 日

学校法人葉梨学園 葉梨こども園
園長 篠宮 けい子
学校法人葉梨学園 葉梨こども園
学校関係者評価委員
山田 美穂